



3年ぶり！ 文化協会「春の発表会」開催

5月28日、29日の2日間、中央公民館において、村文化協会（山崎喜久男会長）主催による「第39回美浦村文化協会春の発表会」が3年ぶりに開催されました。

館内には油絵や陶芸、俚謡、俳句、写真、絵手紙、パッチワーク等の作品が展示され、人々の目を惹きつけていました。

また、29日のステージ発表の部は、美浦村ふるさと大使である棚橋幸代さんが司会を務め、カラオケ、舞踊、フラダンス、太極拳等が披露され、大きな拍手が送られていました。また、ゲストステージでは、歌手の北条きよ美さんが自慢の歌声を披露し会場を盛り上げ、とても楽しいひとときとなりました。

むらの話題

地域の話題を
お待ちしております

■総務課・広報係

☎029-885-0340 (内) 205



美浦村消防団長松本博志さんが藍綬褒章受章

このたび、令和4年春の褒章において松本博志さんが、藍綬褒章を受章されました。藍綬褒章とは、消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した人物に授与される褒章の一つです。

松本さんは、昭和57年から現在まで40年間、美浦村消防団の一員として消防・防災活動に従事されており、火災や水難等の様々な災害現場に出動し活動されております。また、令和2年4月からは美浦村消防団長に就任される等、地域の安全に貢献されてきた功績が認められたものです。

松本さん、このたびの受賞おめでとうございます。そして、これからも地域の安全をよろしく願います。



2代目地域おこし協力隊に料理人の桂典久さんが着任！



《プロフィール》

兵庫県宝塚市出身。大学卒業後、京都嵐山天竜寺で典座（修行僧の食事、仏や祖師への供膳を司る役職）を4年間務めた。その後、土浦市内の飲食店で店長として20年間カウンターに立ちつづけてきた。

6月1日、役場会議室において、村では2代目となる『地域おこし協力隊』の委嘱状交付式が行われ、桂典久さんに、村長から委嘱状が交付されました。

桂さんは、美浦村の農水産品を食材とした料理による地域活性化を活動のテーマとして活動する予定です。当面は初代美浦村地域おこし協力隊が運営する美浦村週末カフェと連携し、自身が考えたランチメニューなどを提供していきます。最終的な目標は、美浦村で村の食材の美味しさを多くの人に知ってもらえる居酒屋を出店することが目標です。

☆地域おこし協力隊とは？

三大都市圏をはじめとする都市地域から住民票を異動し、生活の拠点を移したものを地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱するもので、隊員は、一定期間、地域に居住して地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援を行いながら、地域への定住・定着を図る取り組みです。



おめでとう 美浦所属馬 GI 優勝!



第82回 皐月賞 ジオグリフ号



4月17日、中山競馬場(2000m・芝)で行われた第82回皐月賞において、木村哲也厩舎所属のジオグリフ号が見事GI初制覇しました。

好スタートを切ったジオグリフは、道中5～6番手の外側を追走し、第4コーナー手前からジリジリとポジションを上げていった。人気馬が横並びの最後の直線、外から脚を伸ばし、前を行く僚馬(同じ厩舎に所属する馬のこと)をゴール前でとらえて優勝した。

厩務を担当する岡本卓也調教助手は、「普段はとてもおとなしく、走り出すとまじめに走ってくれます。レース前もリラックスしていて、100%の力が出せたと思います。私自身初めてのGI勝利だったのでとてもうれしかったです。一生懸命走ってくれる子なので、これからも無事に競馬をしていただければいいなと思います。」と語ってくれました。今後の活躍が楽しみです。



木村哲也 調教師



岡本卓也 調教助手

第165回 天皇賞(春) タイトルホルダー号

5月1日、阪神競馬場(3200m・芝)で行われた第165回天皇賞(春)において、栗田徹厩舎所属のタイトルホルダー号が優勝しました。

スタートからまるで昨年の菊花賞の再現のようなレース運びとなり、終始先頭を譲ることはなかった。第3コーナー過ぎから後続が差を詰めてくるものの、最後の直線ではライバルたちをさらに突き放し、2着に7馬身差の大勝となった。

厩務を担当する岩田怜調教助手は、「普段はおとなしいが、レースに向けて仕上がってくると気持ちに乗ってきて、良い意味でのピリッと感が出るんです。第4コーナー抜けたあたりの手応えで、勝ちを確信しましたが、カラ馬がいたのでレースが終わるまでハラハラして見ていました。まだ完成していない伸びしろを感じる馬なので、さらに強くなっていただければと思います。」と語ってくれました。さらなる活躍に期待です



栗田 徹 調教師



岩田 怜 調教助手



横山和生 騎手

第83回 オークス スターズオンアース号



5月22日、東京競馬場(2400m・芝)で行われた第83回オークスにおいて、高柳瑞樹厩舎所属のスターズオンアース号が優勝し、前走の桜花賞に続き、見事に牝馬クラシック2冠を達成しました。

大外枠のスタートから中団の位置につけ、うまくレースを進めた。最後の直線では、1頭だけ次元の違う強烈な末脚で後続に1馬身1/4差の完勝となった。

厩務を担当する藤平真慶厩務員は、「レース前は、少し入れ込んでいたのですが、ゲートに入るまでに上手く落ち着きを取り戻すことができ、安心して送り出せました。調教も順調だったので、無事実力を出して勝つことができたかと思います。剥離骨折の手術も無事に終わったので、今はゆっくり休んで、秋に向けて頑張ってくれればと思います。」と語ってくれました。今後のますますの活躍が楽しみです。



高柳瑞樹 調教師



藤平真慶 厩務員